

● 血清蛋白(血液検査)②

アルブミン<Alb>

<p>意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> 血清蛋白の約60%と最も高い比率を占めている 肝臓で合成され、膠質浸透圧の維持のほか、種々の生体化合物や薬剤の結合・輸送を行う アルブミン値の低下は、肝障害や吸収障害による合成低下、腎障害による体外への漏出増加のほか、代謝亢進などで起こる
<p>基準範囲*</p>	<p>4.2~5.4 g/dL</p>
<p>異常値で疑う疾患</p>	<p>高値：脱水 低値：栄養障害、消化管吸収異常、肝硬変、肝癌、ネフローゼ症候群、浮腫、発熱、ストレスなど</p>
<p>服薬指導に活かせるポイントなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低アルブミン血症の患者は、肝障害あるいは腎障害を有していることが多いため注意が必要 アルブミンが低値の場合、蛋白結合率の高い薬剤(ワルファリン、フェニトイン、バルプロ酸、ジギトキシンなど)では遊離型の濃度が上昇し、作用増強の可能性があるので注意を要する